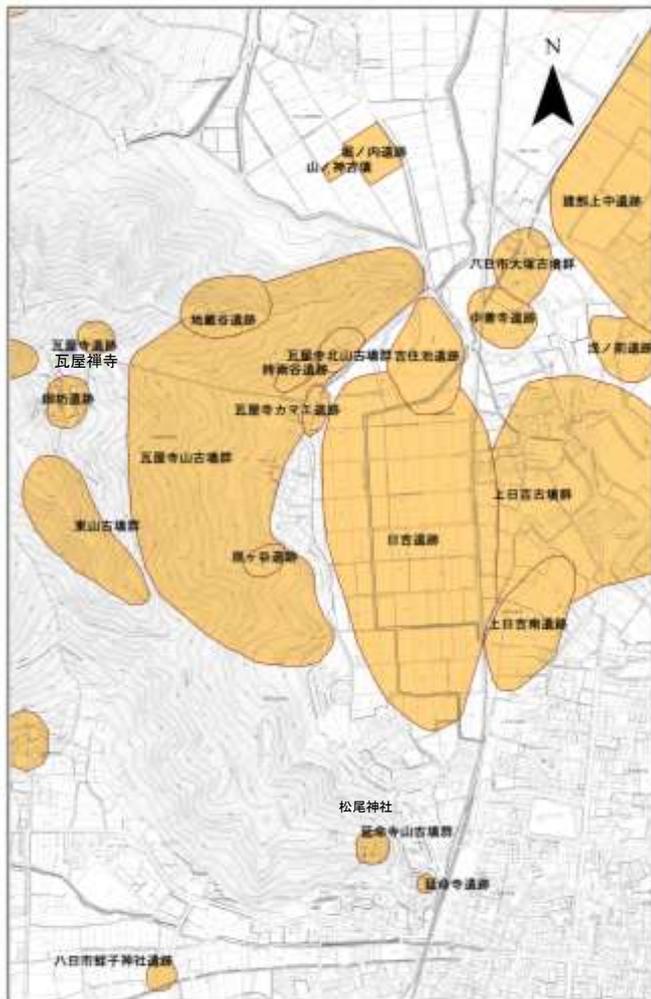


みつくりやまとうろく いせき

箕作山東麓の遺跡

所在地：東近江市建部瓦屋寺町
建部日吉町



遺跡分布地図

遺跡の概要

箕作山^{みつくりやま}（標高約375m）は、東近江市の北東部に位置する、湖東流紋岩や花崗斑岩から形成される湖東平野に特徴的な独立山塊の一つです。箕作山東麓から東側の田園地帯は、かつて愛知川の伏流水が地上に現れる沼沢地で、現在その痕跡として吉住池^{よしずみいけ}が残ります。

箕作山の東麓には、縄文時代晩期の甕棺墓^{かめかん}、弥生時代の方形周溝墓、古墳時代の竪穴建物跡や奈良時代の建物跡が発掘調査で見つかった日吉遺跡を中心として、古墳時代後期の群集墳である瓦屋寺山古墳群^{かわらやじやまこふんぐん}や上日吉古墳群^{かみひよしこふんぐん}、古代にさかのぼる灌漑施設^{かんがいしせつ}の可能性のある吉住池遺跡、祭祀遺跡と考えられる御坊遺跡、白鳳時代の瓦が出土する時雨谷遺跡^{しぐれだにいせき}と崩ヶ谷遺跡^{くずれだにいせき}、古代と近世瓦が出土する瓦屋寺遺跡など、東近江市内でも特に遺跡が密集して分布しています。



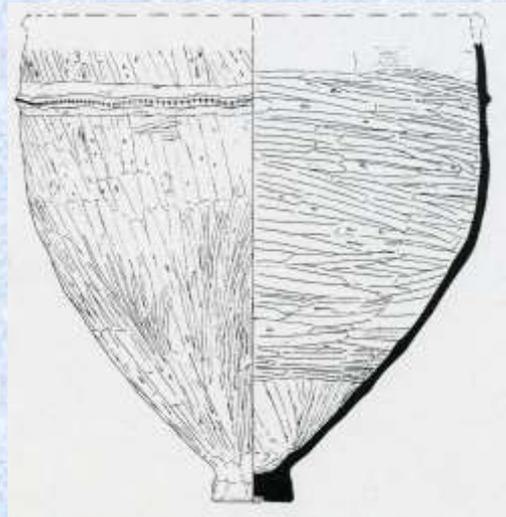
箕作山東麓の風景（合成写真）

縄文時代の遺跡

日吉遺跡と瓦屋寺カマエ遺跡で縄文時代晩期（今から3千年くらい前）の遺物が出土しています。

瓦屋寺カマエ遺跡は、建部瓦屋寺町の集落に沿って延びる道路と水路工事が行われた地点にあります。煮炊きに使った土器、狩猟に使う弓矢の先の石の^{やじり}鏃、穴を開けるための石の^{きり}錐などの道具がまとめて出土しました。

日吉遺跡は、現在水田となっている一帯に広がっている遺跡です。日吉遺跡からは、木を伐採することができる石斧、木の実などをすりつぶすための^{たたきいし}敲石や^{すりいし}磨石、骨製品などを研いだと考えられる^{といし}砥石、漁に使うための石^{せきすい}錘などの石の道具がたくさん見つかっています。また、日吉遺跡の発掘調査では、お墓である甕棺が出土しています。



甕棺（かめかん）



瓦屋寺カマエ遺跡発掘調査状況



←瓦屋寺カマエ遺跡出土
↓ 縄文土器



石鏃（せきぞく）弓矢の先につける「やじり」と石錐（せきすい）



石斧・敲石（たたきいし）・石錘（せきすい）

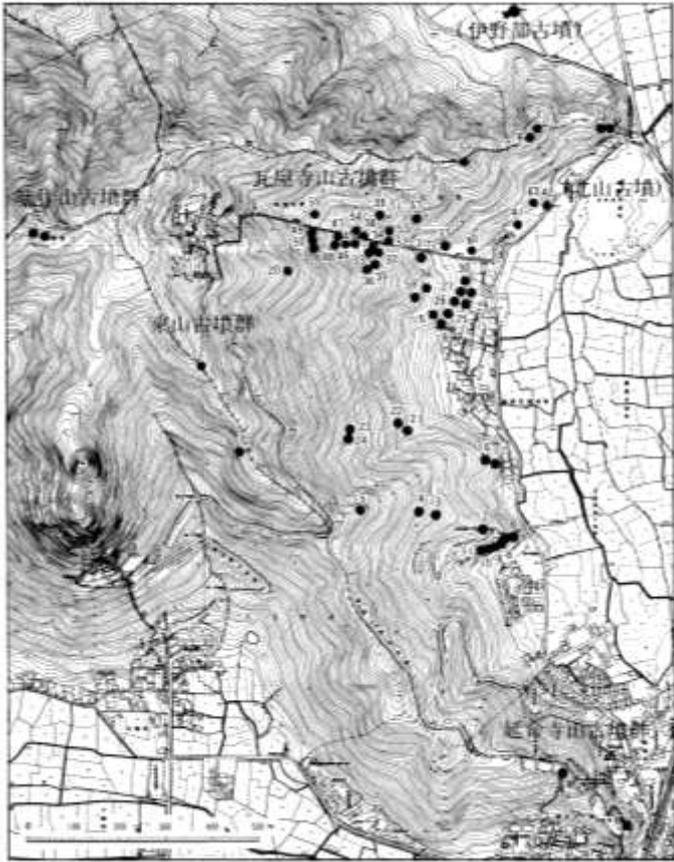
古墳時代の山腹・山麓のお墓

箕作山の山中や山裾には、6世紀後半（古墳時代後期）につくられたお墓が数多くあります。主に円墳で、亡くなった人を埋葬する横穴式石室と呼ばれる石室が残ります。

箕作山では、東麓だけでも瓦屋寺山古墳群、延命寺山古墳群、北山古墳などの古墳が見つかっています。

中でも瓦屋寺山古墳群は、山中に57基ほどが確認されています。発掘調査が行われていないため、詳細は不明ですが、大集団があったことがうかがえます。

北山古墳は、吉住池の前面に位置する古墳で、石室が開口しており、中に入ることができます。石室の主要な部屋である玄室の長さは4.1メートル、玄室へつながる通路状の部分である羨道せんどうの長さは5.4メートル以上あります。



北山古墳 入口の石積が見えています。



北山古墳 石室の奥壁の状況



瓦屋寺山古墳群 39号墳 外観



瓦屋寺山古墳群 39号墳 石室の奥壁の状況

古墳時代の平地のお墓

日吉遺跡周辺の平地にも、古墳時代後期の古墳群が所在します。

上日吉古墳群は、建部日吉町から建部南町にかけて分布する、元は6基からなる古墳群です。建部公民館の近くで、石室が露出した状態で、地元の方々により保存されている古墳を見ることができます。

建部大塚古墳群は、元は3基からなる古墳群です。その中の一つである大塚古墳は、^{びんじつ}玄室の長さが5.75メートルと、周辺の古墳の中でもひとときわ大きいものです。

古墳には、その集団の政治・経済力が反映したと考えられています。一帯の古墳の中でも、建部大塚古墳群は規模が特に大きく、優勢を示しています。



上日吉古墳群 2号墳



上日吉古墳群 2号墳移築復元（東近江市埋蔵文化財センター前庭）

最上段の写真は、上日吉古墳群（建部北町）で発掘調査された1辺が9メートルの方墳（上日吉古墳群2号墳）の発掘調査状況です。

現在は、石室だけが保存され、埋蔵文化財センターの前庭に移築復元しています。（上段の写真）



上日吉古墳群 3号墳



大塚庵古墳



大塚古墳

白鳳時代の瓦窯跡

箕作山東麓には、古代の瓦が散布する2つの遺跡が見つっています。1つは崩ヶ谷遺跡で、緩やかな傾斜地に1基の窯跡の存在が推定されています。煙道と見られる置石や灰原部分の断面が見えていたとされています。

もう1つは時雨谷遺跡で、瓦屋寺参道入り口の北側に位置し、2基の窯跡の存在が推定されています。ここからは7世紀後半頃の須恵器片も見つかるため、瓦と須恵器の両方が焼かれた瓦陶兼業窯跡とされます。

発掘調査がされていないため、詳細は不明ですが、瓦を生産・管理する「瓦屋」の地名の由来となるような窯跡として、注目されます。



瓦採集地点風景



崩ヶ谷遺跡1号窯で見つかった平瓦
瓦窯跡で見つかった瓦は、平瓦だけです。格子タタキの立派な瓦です。



時雨谷遺跡2号窯 平瓦



崩ヶ谷遺跡 隅切平瓦

聖徳太子にまつわる伝承

瓦屋禅寺は、山号を石崎山と号する臨済宗妙心寺派の寺院です。『東大寺三綱記』に、寛平3年(891)に東大寺僧源仁によって再興され、東大寺末寺となったことが知られますが、ここで瓦屋寺が聖徳太子の創建であると記されています。また、瓦屋禅寺所蔵の『江州蒲生郡石崎山瓦屋寺再興幹縁之疏并叙』(1676)には、聖徳太子が四天王寺建立の際に、当地で瓦を作らせ、同時に建立した寺院を瓦屋寺と名付けた、と記されます。

東近江市内は、瓦屋寺の他にも、百済寺、石馬寺、善勝寺などの聖徳太子開基と伝わる寺院や、聖徳太子の伝承が数多く残っています。



聖徳太子の窯跡を探し求めて、2つの窯跡や様々な遺跡を発見したのが、建部瓦屋寺町出身の大谷巖さんです。大谷さんは、発掘されていない遺跡で採集された貴重な遺物を、平成23年に市に寄贈されました。

奈良時代の大型建物跡

日吉遺跡では、飛鳥時代から奈良時代と思われる大型の掘立柱建物跡群が見つかりました。掘立柱建物群は、9棟前後から構成され、一時期に3棟前後が併存し、3回建て替えられたと考えられています。

特徴は、棟方向を東西南北にとり、整然と並んでいること、いずれの建物も大きいことが挙げられます。

中でも掘立柱建物跡2は、桁行（長い方）が6間、梁間（短い方）が2間で、4面に廂がつく立派なもので、総長21.8メートルに及びます。これが中心となる建物と見られます。

また、掘立柱建物跡1は、掘立柱建物跡2の南側に、桁行を同一南北方向にそろえて建てられた長大な建物で、桁行7間、梁間2間、長さはおおよそ17メートルです。さらに掘立柱建物跡3も、掘立柱建物跡1、2と同一方向をとっていて、桁行5間、梁間2間の建物となっています。

直線状に並ぶ掘立柱建物跡1～3に対して、直角に並ぶのが掘立柱建物跡4～6です。掘立柱建物跡4は、桁行8間、梁間2間に南側に廂がつくもので、長さおおよそ20メートルと長大です。

なお、掘立柱建物跡2の東側には柵があり、その東は空地となっていて、広場であったと考えられています。

遺跡の性格については、直線やL字に長大な建物が配置され、広場があることなどから、正殿と細殿からなる官衙跡（古代の役所跡）という説や、豪族の居館という説があります。

なお、掘立柱建物跡2の西側には、大型の土坑が複数掘削されており、ここが瓦を作るための粘土を採掘した穴ではないかと考えられています。



日吉遺跡 掘立柱建物跡2



日吉遺跡 掘立柱建物跡1



日吉遺跡 掘立柱建物跡群平面模式図

瓦屋寺遺跡の瓦

瓦屋寺遺跡は、箕作山中腹の瓦屋禅寺の境内に広がる遺跡です。発掘調査は行われていませんが、瓦屋禅寺の庫裏の建て替えや本堂周辺で、古代と中世の丸瓦、土管が見つっています。

瓦屋禅寺では、『近江神崎郡志稿』に古代の軒丸瓦が見つっていることが知られています。山裾に瓦が散布する窯跡があることから、瓦屋禅寺は元々は山裾にあったのではないかという説や、八日市地区では古代寺院跡が知られておらず、その時代に遡るような寺院であった可能性も指摘されています。



瓦屋寺遺跡から出土した遺物

箕作山山中の祭祀遺跡

箕作山山中には、数多くの巨大な岩塊を見ることができます。これらは神の依代よりしろとされる磐座いわくらとして、信仰の対象となっているものです。瓦屋禅寺の本堂近くの駐車場の工事で岩盤を削った際に、古墳時代後期から平安時代までの遺物が見つかり、磐座祭祀遺跡として御坊遺跡と名付けられました。

遺物は、須恵器杯蓋破片、須恵器蛇形破片、灰釉碗破片、磨石、玉砥石が見つっています。蛇の頭部の形をした須恵器片は、装飾壺から外れたものです。

また、ここから山裾に下がったところに、牛尾神社が鎮座します。牛尾神社の本殿の後ろにも大きな磐座があり、山から麓へと神の通り道であったと考えられています。



御坊遺跡から出土した遺物



御坊遺跡の祭祀遺物出土現場



牛尾神社

松尾神社（松尾町）

松尾神社は、主祭神を大山咋神とし、市杵嶋姫命と猿田彦命を併祀した神社です。元々は、すぐ南側の延命山にあった善勝寺守護の社として、日吉神社に属していたとされます。

境内には、著名な庭園研究者の重森三玲氏が昭和11年に調査し、桃山時代初頭の作庭と認められた庭園遺構が残ります。須弥山や鶴亀島に見立てた多数の石組みからなる、武家好みの力強いもので、近江守護佐々木氏と関わりがあった可能性があります。



松尾神社本殿（文政8年(1825)）

松尾神社 鳥居

松尾神社は山裾に位置していて、道路沿いのこの鳥居が神社の目印です。



松尾神社庭園（市指定名勝）桃山時代



松尾神社 こけら経（県指定有形）

近年、松尾神社でこけら経が見つかりました。こけら経とは、こけら（薄い板材）に書写された経典です。貞治4年（1365）から応安元年（1368）にかけて、巖違という人が「法華三部経」を書写したものです。伝世するこけら経として極めて希少で、価値の高いものです。

★瓦屋禅寺（瓦屋寺遺跡）へは・・・

所在地：東近江市建部瓦屋寺町 436 番

電話：0748-22-1065

アクセス：

- ・近江鉄道八日市駅下車 山門まで徒歩 20 分
- ・近江鉄道八日市駅から「ちょこっとタクシー建部循環線（予約制）」で山門「瓦屋寺」下車
- ・近江鉄道バス神崎線能登川駅から「瓦屋寺口」下車、山門まで徒歩2分

※山門からは文化庁「ふるさと文化財の森」に認定されている山中を、趣のある石段を上がって本堂へ。松尾神社横のドライブウェイから本堂へ行くこともできます。見晴らしが良好で、こちらもおすすです。



瓦屋禅寺（臨済宗）



瓦屋禅寺の参道

国宝・重要文化財建造物の修理に使われる檜材を提供する「ふるさと文化財の森」に認定されています。



東近江市の遺跡シリーズ 21 「箕作山東麓の遺跡」

編集・発行：東近江市教育委員会 埋蔵文化財センター

〒521-1225 滋賀県東近江市山路町 2225

TEL:0748-42-5011 IP:050-5801-5011

FAX:0748-42-5816

[平成 29 年3月発行]

このパンフレットは国庫補助事業「地域の特色ある埋蔵文化財活用事業」を得て作成しました。